

スタッフの短期渡米に伴う

添削等に関わるお願い

前号でもお知らせしましたが、当SLM日本支部の支部長夫妻がファーローのため、2014年2月中旬より4月中旬まで渡米しますので、添削その他でご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い致します。

★添削……恐れ入りますがこの期間は添削を休止させていただきます。(帰国後にまとめて行います。)ただし、レッスンは予めその期間分、お送りしますので、学びはぜひ継続しててください。1月に入ったら、レッスンは5月頃までの分を、当方で判断して多めのお送りしますので、ご了承ください。もしその件で、ご希望があればその旨お知らせください。

解答は1月末まで到着の分は添削できます。それ以降は送っていただいても、添削は5月頃になりますので、4月中旬以降にまとめて送って頂く方が良いかと思えます。

★テキストの注文…これは協力学校の方にはお願いすることですが、来年5月までに必要と見込まれる分については、ぜひ1月中旬までにご注文ください。

★新規の受講申し込み…ホームページなどで新規に申し込まれる方には、他の協力スタッフが対応しますので、お受けできます。(郵便でのお申し込みには対応が遅れますがご了解ください。)

受講生のあかし

今回は協力学校の一つである埼玉県のパテルバプテスト教会の教会員、高祖侃さんのあかしを、ご本人と教会の許しを得て掲載致します。ご夫妻の愛の姿に心打たれると共に、神さまの深い恵みに感謝します。



「私は以前、神を信じている人は自分の生き方に自信のない人で、空想で作上げた神に逃げ込んでいるだけだと考えていましたし、教会や聖書に全く興味がありませんでした。家族、親戚また仕事仲間と面白おかしく暮らせれば良いと思っていました。ですから休日は家でテレビのスポーツ番組を見ながら、ダラダラ一日過ごしていました。

今年の4月に妻のガンが再発し、入院しました。病状

が進み最後が近づいたとき、妻大子(ひろこ、61歳)ははっきり言いました。『今までは家族のことを第一にしてきましたが、私が死んだら葬儀と埋葬は教会でお願いします。これだけは譲れません。』と。それを聞いて私は驚き、牧師先生に相談にのって頂くため、初めて教会を訪れました。また、よく解らないながら、親戚から、奥さん一人だけキリスト教のお墓に入るのは可哀想だと言われた時『それじゃ僕と一緒にやってやるよ。』と答えていました。そして妻が何を求めて、何を信じて教会に足を運んでいたのを知りたくて、6月23日に初めて日曜礼拝に出席させていただきました。



その後、三田牧師夫妻のご指導でSLM聖書通信講座「神の言葉・聖書」の5回の学びを重ねるうちに、今までは自分の周りで何が起っても偶然のこと軽く考えていましたが、何か目に見えない、触れることもできない、人間では不可能な力が働かなければ起こりえない不思議な出来事が、過去の自分に何度かあったことを自覚できるようになりました。その何かがイエスさまの力であり、神さまが働いてくださっていたのではと思えるようになりました。そして、イエス・キリストが私の罪の罰を代わりに受けて、十字架の上で死んでくださったこと、3日目によみがえられたことを心から信じ、救い主として受け入れました。

妻は『私のために信じるのだったら止めてほしい。』と言いましたが、そうではない、自分が聖書を学んで信じたと言ったら、納得してくれました。そして最後の帰宅許可をいただいた7月14日に妻と一緒に礼拝に出席できました。大子は8月18日に天に召されましたが、痛みも苦しみもない天国に行ったのだ、そしていずれ天国で再開できると知った今、大子の分も神さまに仕え、クリスチャンとして成長していきたいと思えます。

もしイエスさまを信じていなかったら、なぜ61歳の若さで、妻が私や子供たちだけでなく、母親よりも早く死ななければならなかったのか、自分は妻にベストの看護ができていたのか、医師の処置はあれ以上できなかったのか等、後ろ向きの考え方にとらわれ、毎日を暗い気持ちで過ごしていただろうと思います。



妻がきっかけを与えてくれ、イエス・キリストを信じてきたことを、心から妻にそして神さまに感謝しています。

2013年9月22日

高祖 侃